

はじめに

■ごあいさつ

近年、全国各地で大規模な災害が発生しています。本市においても、30 年以内に高い確率で発生することが危惧されている南海トラフ巨大地震をはじめ、大雨による洪水や土砂災害などの自然災害が、いつ、どこで発生するかわかりません。

自然災害の発生を完全に防ぐことはできませんが、市民一人ひとりが災害に備えるとともに、避難時の心構えを持つことで、被害の軽減を図ることは可能です。

四国中央市では、引き続き様々な防災・減災対策に取り組んでまいります。市民の皆様におかれましては、このたび作成した「四国中央市防災マップ」を活用していただき、安心・安全に暮らせるまちづくりの実現に向けて、災害への備えに取り組んでいただけますよう、よろしくお願いいたします。



四国中央市長
篠原 実

防災マップの使い方

「四国中央市防災マップ」は、市で想定されている災害や避難に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に作成したものです。

この防災マップを活用していただき、ご家族や職場などの皆様で、身の回りで災害の危険がある箇所や避難場所・避難所、避難経路を確認し、日頃から災害に備えましょう。

ステップ① ご自宅などにおける災害の危険性を確認しましょう。

ご自宅や職場・学校などの日頃訪れる場所を確認し、その場所でどのような災害の危険性があるかを確認しましょう。



ステップ② 避難場所や避難所を確認しましょう。

ご自宅などにおける、近くの避難場所・避難所を確認しましょう。その避難場所等が、ステップ①で確認した災害の危険性に対応した避難場所等となっているかも確認しましょう。



ステップ③ 避難経路を確認しましょう。

ご自宅などから避難場所・避難所への避難経路を確認しましょう。その避難経路に、洪水や土砂災害などの危険性がある場合は、避けて通れる避難経路も確認しましょう。また、実際に歩いてみて、どれぐらいの時間がかかるか、避難の際に危険な場所（例えば、老朽化した空き家や狭い道路のブロック塀など）がないかを確認しましょう。



ステップ④ 家族や職場などで話し合いましょう。

ご家庭や職場・学校などで、災害の危険性や避難場所・避難所、避難経路などについて話し合い、みんなの安全確保に必要なことを確認しましょう。

目次

■はじめに	1
■地震・津波	2
■洪水・土砂災害	9
■その他の災害	13
■災害情報と備え	15
■マイ・タイムラインの作成	17

■指定一般避難所・指定緊急避難場所・指定福祉避難所一覧	19
■防災マップ(地図面)の見方	21
■防災マップ	
■津波・土砂災害等	23
■高潮・洪水等	63
■防災メモ	71

地震・津波

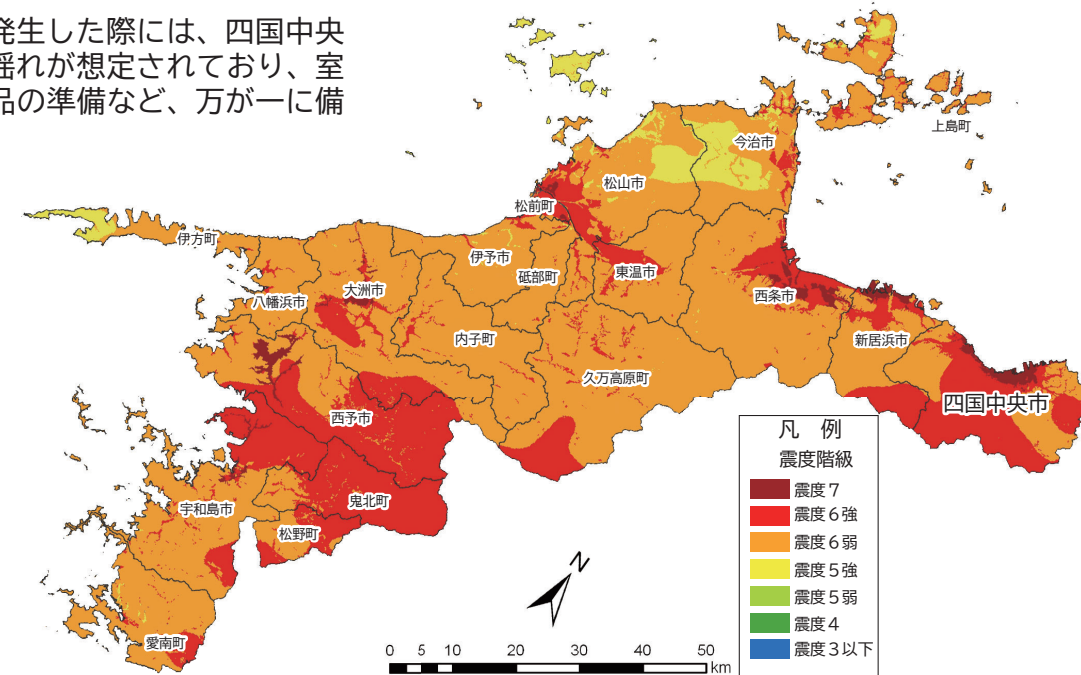
地震について

日本は、世界の面積の1%にも満たない国ですが、世界の約10%の地震が発生しています。身体に感じない小さな地震までいれると、いつもどこかで地震が起こっており、世界で有数の地震国といえます。

地震は、地下で起きる岩盤の「ずれ」により発生する現象で、海溝型地震と直下型地震に分類されます。四国地方では、南海トラフ巨大地震（海溝型地震）や中央構造線による直下型地震などの発生が懸念されています。大規模な地震が発生すると、家屋の倒壊をはじめ、津波や土砂災害、火災等の複合災害となる可能性もあり、生命や財産等に大きな被害を与えます。

南海トラフ巨大地震による揺れ

南海トラフ巨大地震が発生した際には、四国中央市では、震度6弱～7の揺れが想定されており、室内の安全確保や非常持出品の準備など、万が一に備えておく必要があります。



震度

震度は、地震の揺れの強さを表すもので、地震による揺れを感知し自動的に震度を計算する「震度計」という機器で観測しています。ある震度が観測された時に、その周辺で発生する揺れなどの現象や被害の目安は以下のとおりです。

こんな現象が
起こる！

震度0 人は揺れを感じない。地震計には記録される。	震度1 ・屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	震度2 ・屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	震度3 ・屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。	震度4 ・ほとんどの人が驚く。 ・電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ・座りの悪い置物が倒れることがある。	震度5弱 ・大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ・棚にある食器類や本が落ちることがある。 ・固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度5強 物につかまらなと歩くことが難しい。 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 固定していない家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。	震度6弱 ・立っていることが困難になる。 ・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ・耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	震度6強 ・はわなと動くことができない。飛ばされることもある。 ・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ・耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。 ・大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。	震度7 ・耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。 ・耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。		